

# イギリスにおけるユニバーシティ・テクニカル・カレッジの評価

望 田 研 吾

## Evaluation of University Technical Colleges in England

Kengo Mochida

(2016年11月25日受理)

### はじめに

イギリスにおいて現在、中等教育段階で進められている中心的教育改革の1つがユニバーシティ・テクニカル・カレッジ (University Technical College, 以下 UTC) の導入である。UTC は大学や企業等が「スポンサー」となって設立され、14歳から18歳の生徒を対象に技術教育を提供する中等学校である。筆者は UTC について科研「イギリスのユニバーシティ・テクニカル・カレッジに関する比較教育学的研究」<sup>[1]</sup> において、継続的に研究を進めてきている。本研究において筆者はこれまで20校の UTC を訪問し校長等に対してインタビューを行ったが、その中で UTC の校長たちは、UTC や技術教育への自己の思い、自校の教育実践の実態、これまでの成果、さらに抱える問題点等について率直に語ってくれた。それらに基づき、筆者は UTC 導入の背景、UTC における教育の実態、企業や大学による関与の実態、UTC が直面している課題等を明らかにしてきた。<sup>[2]</sup>

2010年9月に最初の UTC が設立されてから6年が経過し、UTC の中にはイギリスで義務づけられている教育水準局 (Ofsted) が行う学校査察を受ける学校も出てきている。これまでに開校された UTC は2016年9月現在で52校であるが、このうち教育水準局の学校査察を受けた学校は16校ある。<sup>[3]</sup> 教育水準局は査察した学校の詳細な評価結果を公表しており、その査察報告を見れば学校のみならずさまざまな面における実状、長所、短所、必要な改善

点等を的確に把握することができる。<sup>[4]</sup> したがって、UTC に対する教育水準局の学校査察報告を分析することは、校長たちによって語られた学校の姿を客観的な視点から補うことになり、UTC の実相を知る上で重要であると考えられる。本稿ではこうした観点から、以下 UTC に対する教育水準局の学校査察報告を手がかりとして、UTC がどのように評価されているのかを見ていきたい。

### 1. 高い評価を受けた UTC

#### (1) UTC レディング

教育水準局の学校査察を受けた16校の UTC の評価は、「優」が1校、「良」が7校、「要改善」が6校、「不適」が2校となっている。この唯一最高の「優」の評価を受けたのが UTC レディングである。<sup>[5]</sup> 教育水準局の学校査察は「リーダーシップとマネジメント」「生徒の行動と安全」「ティーチングの質」「生徒の達成度」「シックス・フォームの教育」という5つの評価観点で行われたが、UTC レディングはこのすべての項目について「優」の評価を受け、総合評価で「優」とされたのである。評価の主なポイントは以下のようなものである。<sup>[6]</sup>

- 「この学校は素晴らしい」という一人の生徒のコメントは、いかに UTC レディングが、学習し成功したいという生徒の願望を燃え立たせているかを反映している。
- 見識があり非常に有能な理事とビジネス・パートナー

別刷請求先：望田研吾，中村学園大学教育学部，〒814-0198，福岡市城南区別府5-7-1

E-mail: kmochida@nakamura-u.ac.jp

[1] 本研究は JSPS 科研費26381162の助成を受けたものである。

[2] 拙稿 (2015) 「イギリスにおけるユニバーシティ・テクニカル・カレッジの展開」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』47号及び拙稿 (2016) 「イギリスにおけるユニバーシティ・テクニカル・カレッジの現状と展望」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』48号参照。

[3] 16校はアストン・ユニバーシティ・エンジニアリング・アカデミー、ブリストル・テクノロジー・アンド・エンジニアリング・アカデミー、バッキンガムシャー UTC、ダベントリー UTC、リバプール・ライフ・サイエンス UTC、ロイヤル・グリニッチ UTC、JCB アカデミー、UTC セントラル・ベッドフォードシャー、UTC プリマス、UTC レディング、UTC シェフィールド、シルバーストーン UTC、ザ・エルストリー UTC、ウィガン UTC、ブラックカントリー UTC、ハックニー UTC である。

[4] 学校評価は、「優」(outstanding)、「良」(good)、「要改善」(requires improvement)、「不適」(inadequate) という4段階で評価される。

[5] UTC レディングの開校は2013年9月。査察は2015年5月19日、20日に実施された。

[6] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report: UTC Reading, 19-20 May 2015* による。

によってサポートされかつチャレンジを受けている校長の活発なリーダーシップが、生徒の卓越した達成度をもたらしている。

- シニア・リーダーは生徒の向上を評価し追跡するための確固としたシステムを素早く実行した。その結果、必要な生徒に対して効果的なサポートが迅速に提供されている。
- 実務的 (business-like) なエトスがすべての学習面に浸透している。生徒は現代イギリスにおける将来の生活に非常にスムーズに適合するような準備を受けている。
- 教師たちは、効果的な授業をプランするために生徒の向上に関する情報を十分に活用している。すべての生徒への教師の高い期待は、生徒の側の学習への熱意と成功につながっている。
- すべてのグループの生徒が非常に良好な向上を示している。不利な環境にある生徒たちは英語と数学において非常に早く向上している。不利な環境にある生徒と他の生徒との間の学力差は急速に縮まっている。
- 安全の確保は学校において高い優先順位が与えられている。すべての法定要件は遵守されており、生徒は学校では非常に安全と感じ、親もそれに同意している。
- シックス・フォームにおいては、生徒の達成度は非常に高く下級生にとって卓越したモデルとなっている。

UTC の特質に関わる、より具体的な評価では「カレッジ・リーダーはカリキュラムを注意深くデザインしている。UTC レディングは、エンジニアリングとコンピュータ科学という同校のスペシャリスト科目に集中しており、数学と科学を特に重視している。キー・ステージ4では生徒は英語、文学、体育を履修しており、現代外国語、ビジネス、地理または歴史を履修することができる。」という評価がなされている。UTC の特色の1つは、それぞれのスペシャリズム科目を深く学習するとともに、16歳までの段階では幅広い学習も確保するというものであるが、UTC レディングでは UTC のこの理念に忠実に即した実践がなされていると評価されているのである。

また、UTC における教育実践のエッセンスとなる企業との連携については、「生徒は、ビジネス・パートナーとの強いリンクによって素晴らしいキャリア・ガイダンスとサポートを受けている。ビジネス・パートナーは、資

格の面だけではなく、パーソナルなスキルの面からも生徒が即戦力であると報告している。生徒は自分の関心と将来のキャリアにとって適切な職場実習に参加しており、ビジネス・パートナーのところで価値あるアプレンティスシップを多くの生徒が獲得している。」や「生徒はビジネス・パートナーによる広い範囲の刺激的なプロジェクトや職場実習に参加しており、その結果、きわめて高い資格を持って次のステップに進んでいっている。」と称賛されている。

こうした教育実践が、上記の「実務的なエトスがすべての学習面に浸透している。生徒は現代イギリスにおける将来の生活に非常にスムーズに適合するような準備を受けている。」という評価につながっているとおもわれる。この評価は、企業等への「雇用可能性」を生徒に涵養するという UTC にとっての中心的役割を UTC レディングが十二分に果たしていることを示すものであり、UTC レディングもこの評価コメントを学校要覧の中で大きく掲げ、注目を集めようとしている。<sup>[7]</sup>

筆者は UTC レディングを2014年11月12日に訪問したが、副校長は「毎週のプロジェクトにも企業からの人が参画しています。それらのプロジェクトでは生徒は、アプリの開発、データベース、エレクトロニクス、鉄道の立体交差のデザインなどに取り組みます。多くの企業からの人々が、いろいろな点でティーチングに関わりサポートしています。」と述べていた。また、UTC における教育のもう一つの焦点である大学との連携について副校長は「私たちはレディング大学と緊密に協働しています。大学のエンジニアリングの実験室への訪問なども行っていますし、他のいろいろな面でも関わっています。・・・私たちは大学に行って大学の教員から講義を受け電子デバイスの開発をしました。私たちが大学に行ったり、大学からゲストが来たりします。・・・私たちは大学と密接に協力しています。」と大学との緊密な協力についても強調していた。<sup>[8]</sup> この点について評価報告は「レディング大学とのパートナーシップによって生徒は大学の図書館や実験室を利用できる」と、レディング大学によるサポートにも言及している。このように UTC レディングに関する評価報告は同校における企業や大学との協力、連携が卓越したものであり、それが高い教育効果をもたらしていることを証明しているのである。

## (2) JCB アカデミー

次に、「良」の評価となった UTC の中で、筆者が2013年11月5日に訪問した JCB アカデミーについて見てみた

[7] UTC Reading, *School Prospectus*, p. 9.

[8] 拙稿 (2016) p.145

い。<sup>[9]</sup>JCB アカデミーの場合は、「リーダーシップとマネジメント」「生徒の行動と安全」「ティーチングの質」「生徒の達成度」の4項目について「良」で、総合評価も「良」であった。<sup>[10]</sup>

主な評価のポイントは以下のように述べられている。<sup>[11]</sup>

- ガバナンスを含むリーダーシップは良好であり改善しつつある。リーダーシップ・チームと理事は協力して水準向上に成功している。その結果、すべてのグループの生徒が持続的に向上しており、ほとんどの生徒の達成度は良好である。
- 生徒は数学、エンジニアリング、ほとんどの職業コースで卓越した向上を示している。
- 多くの生徒は JCB アカデミーの特質及びエンジニアリングとビジネスにおけるその高い評価を反映するアプレントイスシップ、高等教育コースやキャリアに進んでいる。
- 生徒の達成度の改善はラーニングとティーチングを改善するための同校の努力の直接的成果である。ティーチングは良好であり改善されつつある。教師は高い期待を持ち、生徒の達成度について高い目標を掲げている。
- 生徒は同校が非常に安全であると感じており、親もそれに同意している。
- 生徒の規律は良く、学習に真面目に取り組んでおり、学校を誇りに思っている。生徒のマナーは良くビジターを歓迎する態度である。
- シックス・フォームの質は良好である。生徒の向上は着実であり、多くの生徒が十分に計画されたカリキュラムを履修することによってコースを修了し、適切な資格を取得している。

より具体的な評価では、JCB アカデミーも UTC に期待される役割を十分に遂行していることを示している。例えば、「エンジニアリングと技術科目における特にすぐれた学習は、エンジニアリングと産業界における専門的経験と深い知識によって生徒に刺激を与える教師によって支えられている。」や「JCB アカデミーは生徒の将来の教育とキャリアに向けて、生徒を非常に良く準備している。大多数の生徒はリテラシー、コミュニケーション、ニューメラシーのスキルを十分に発達させている。2013年には

すべての11学年の生徒がシックス・フォーム、企業、職業訓練へと進んだ。JCB アカデミーを卒業したすべてのシックス・フォーム生徒は、大学、企業、アプレントイスシップへと進んだ。」という評価がされている。筆者の訪問時に、校長は「本校は、既に卒業生を2回送り出しています。そのうち、ニートになった生徒はひとりもいません。すべての生徒が、進学したか就職しました。ロールスロイスやベントレーが本校にやってきてリクルートし、上級アプレントイスシップに採用された生徒もいます。大学進学も好調でした。奨学金を得て機械工学専攻に進んだ生徒もいます。本校の目標は、生徒たちに、エンジニアリングや製造業の分野で非常に成功するキャリアを得るために必要なツールを提供することです。また、本校での経験を基にして彼らが非常に成功した人生を送ることができるようにすることです。」<sup>[12]</sup>述べていた。UTC はすぐれた技術教育を提供することによって、生徒が大学進学の道を選択することも、アプレントイスシップに進むことも、さらには技術関係の仕事に就くことも可能にすることを大きな任務としている。この点について、評価報告は JCB アカデミーの成果を高く評価しているのである。

### (3) ウィガン UTC

筆者が2014年11月10日に訪問したウィガン UTC<sup>[13]</sup>も「リーダーシップとマネジメント」「生徒の行動と安全」「ティーチングの質」「生徒の達成度」「シックス・フォームの教育」の5項目について「良」。総合評価で「良」と評価されている。「良」と評価された理由は以下のものである。<sup>[14]</sup>

- 継続的改善に対して明確に焦点をあてた強力な校長がスタッフと生徒の双方に対する高い願望と期待という文化を確立した。
- 校長によって明確に示された達成への焦点を幹部教員とスタッフが受け入れている。
- 良好なティーチングとラーニングによってすべての生徒が期待される向上を達成しており、かなりの数の生徒が期待される以上の達成度をあげている。
- 生徒の向上を追跡する確固たるまた総合的なシステムと適切な介入が生徒の向上を加速している。
- 生徒は学習と強く仕事に関連づけられたスキルと態

[9] JCB アカデミーは2010年9月にフリー・スクールとして設立され、2013年1月に UTC となった。査察は2014年5月7日、8日に実施されている。

[10] 「シックス・フォームの教育」についての評価点は記載されていない。

[11] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, The JCB Academy, 7-8 May 2014*による。

[12] 拙稿 (2015) p.155

[13] ウィガン UTC の開校は2013年9月。査察は2015年5月19日、20日に実施された。

[14] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, Wigan UTC, 19-20 May 2015*による。

度というモデルへの強いコミットメントを持っている。

- 特に16歳以降の段階においてカリキュラムの質を強化するような企業との非常に良好な連携が存在する。
- 理事たちは非常に協力的であり、仕事の世界との連携を強化している。

UTC の特質に関わっては、「学校はそのカリキュラムを強化し活性化する企業との卓越したリンクを持っている。学校はローカル・コミュニティとの協力を促進している。」や「16歳から19歳段階のカリキュラムは十分に計画されている。アカデミックな資格と職業的資格とのコンビネーションは体系的であり、NVQのドイツ語科目はドイツの企業とのリンクの拡大を強化している。16歳から19歳段階のカリキュラムは学習プログラムの要件に適合するものであり、英語、数学に加えてエンリッチメント活動、職場実習、仕事に関連する学習も適切に提供されている。」との評価がなされている。これは、技術教育に重点を置きながらもアカデミックな資格と職業的資格の取得を可能にするという UTC の任務が十分に遂行されていることを表している。

ウィガン UTC の校長は、筆者の訪問時に「私たちにとっての大きなチャレンジは、本校は（大都市の）マンチェスターとリバプールのちょうど中間にあって、ウィガンまで学校に来る人は余り多くないことです・・・現在、生徒数は定員500人に対して65人だけです。だから、この1年は私たちにとっては厳しい年でした。今年は、生徒を多くリクルートするために魅力的なマーケティングに力を入れなければいけません。」<sup>[15]</sup> と、14歳での生徒のリクルートメントの困難性を述べていた。事実、ウィガン UTC の定員充足率は2014/15年では12.2%、2015/16年では14%と継続的に厳しい状況に置かれている。<sup>[16]</sup> こうした中で評価報告は「同校の最大の長所は、地元企業や全国的企業との卓越したリンクと、カリキュラムの強化と仕事に関係するスキルと態度の発達へのそれらの貢献である」と指摘し、低い定員充足率にもかかわらず UTC の理念に即した教育実践が行われていることを評価しているのである。

## 2. 「要改善」の評価を受けた UTC

### (1) ダベントリー UTC

2014年11月17日に筆者が訪問したダベントリー

UTC<sup>[17]</sup> は「リーダーシップとマネジメント」「生徒の行動と安全」「生徒の達成」の3項目では「良」の評価であったが「ティーチングの質」「シックス・フォームの教育」の2項目について「要改善」とされ、総合評価では「要改善」となった。その理由は以下のようなものである。<sup>[18]</sup>

- ティーチングの質は高くない。教師は生徒が授業で達成できることに對して高い期待を持っていない。生徒がより良い向上をするのに役立つサポートやチャレンジをするための時間がほとんどない。
- 授業の中で生徒たちがそのリテラシーのスキルを向上させる機会がほとんどない。教師はしばしば文法やスペルの誤りをチェックしていない
- 教師たちの生徒の学習結果に対するチェックは首尾一貫していない。生徒の学習結果が評価されなかったり、生徒がより良い成績をどのようにすれば達成できるのかを知るのに役立つようなフィードバックを受けていないケースが多くみられる。
- シックス・フォームは改善が必要である。ティーチングの質は高くない。自分の能力に見合った向上をしているシックス・フォームの生徒が余りにも少ない。シックス・フォームの生徒への職場実習がまだ十分に整備されていない。
- 仕事に関連する学習機会を生徒に定期的に提供するための産業とのリンクを最大限に活用していない。技術科目におけるリソースも最大限の活用がされていない。

筆者が訪問した時にダベントリー UTC の校長は、企業が積極的に関与して行われる「プロジェクト」について、「企業がやっていることはチャレンジ・プロジェクトの設定です。技術カリキュラムでは生徒はいくつかの単元を履修しなければなりません。その単元にはプロジェクトがあります。企業がそのプロジェクトを設定します・・・こうしたプロジェクトはすべて企業がスポンサーとなっています。（企業が）『私たちは問題を抱えている。それをどのようにして解決するのか』という課題を与えるのです。」<sup>[19]</sup> と、UTC の教育実践における企業のプロジェクトの重要性を強調していた。

しかし、こうしたプロジェクトに関して評価報告は「地元企業によって設定されるプロジェクトに基礎をおいた

[15] 拙稿（2016）p.149

[16] 'Recruitment at 14 "difficult" as UTCs capacity runs as low as 12.2pc,' *FE Week*, April 27, 2015 and 'Numbers falling, closing down-University Technology College revolution fails to deliver' *FE Week*, February, 8 2016

[17] ダベントリー UTC の開校は2013年9月。査察は2015年4月29日から5月11日かけて実施された。

[18] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, Daventry UTC, 29 April-11 May 2015*による。

[19] 拙稿（2016）pp.146-7

学習活動は、生徒の技術的知識とスキルを発達させるために高い質の実社会のコンテクストを提供しているが、そのカリキュラムにおいて企業パートナーの側の十分な関与をシニア・リーダーは確保していない。」というものであり、学校側のプロジェクト実施体制を問題視していた。また、「シックス・フォームにおけるリーダーシップは改善を要する。シニア・リーダーは特に技術科目における生徒の達成をサポートするための仕事に関連する学習にとって整備されたプログラムを構築していない。生徒の次の段階の教育、雇用、訓練のための向上と雇用可能性をサポートするための、技術的スキルの理解と応用を増大させる組織だった職場実習を経験しているシックス・フォーム生徒はほとんどいない。」と、企業等における実際的な経験を通して技術的スキルを向上させ、生徒の「雇用可能性」を増大させるという UTC の中心的目的の達成が不十分であると指摘しているのである。そのため、改善を要する点の中に「より多くの生徒がさらに向上することを可能にするために、テクニカルな設備とリソースを最大限活用すること」や「すべての生徒の職場実習のプログラムを構築すること」さらに「生徒が、特に技術科目において、仕事の世界に自分たちの学習を応用するための整備された、また頻度も高い機会を確保するために産業界とのリンクをさらに強めること」があげられているのである。

ただ、UTC の教育実践に関わってポジティブな評価も見られる。筆者の訪問時に校長は、同校では「インテリジェント・ハンド」の資質を涵養することを重視していると強調していた。「インテリジェント・ハンド」とは、アカデミックな要素（すなわちインテリジェント）を備えながら実際的な技術（すなわちハンド）も持つ人材の養成を表現した言葉である。この資質を涵養するために校長は『何故、数学で三角法を勉強しなければならないのか』と生徒が尋ねたとき、『試験に出るから』と答えても、生徒の（学習）意欲は湧きません。しかし、『（家を建てる時に）屋根の構造を計算するのに必要』と答えると、生徒は納得します。学習を生活に活用するようになれば、生徒は理由がわかるのです。』<sup>[20]</sup> と現実の生活に即した学習を推進していると語っていた。この点について評価報告は「数学の学習が、現実の生活と仕事に関係するシチュエーションに応用されたときに生徒の興味と理解は高められている。」と一定の評価を与えている。

ところで、ダベントリー UTC もウィガン UTC と同様

に、低い定員充足率にとどまっている。600人の定員に対して在籍者数は2014/15年が169人、2015/16年が151人で、定員充足率は25%程度でしかない。こうした低い定員充足率は、ダベントリー UTC の財政状態を悪化させる結果をもたらし、同校は、学校に資金を供与する国の機関である教育財政機構 (Education Funding Agency) から、財政状態の改善を要求される UTC で最初の学校となった。すなわち、2016年4月に教育財政機構は、ダベントリー UTC に対して「現実的な生徒数に基づく均衡予算を詳説した確固とした赤字解消計画」を提出することを要求し、赤字解消計画が失敗した場合には資金供与を停止するという警告も行ったのである。<sup>[21]</sup> こうした事態は、14歳でのリクルートメントが困難な状況に加えて、UTC としての低い評価がさらに定員充足を難しくさせ、そのため財政状態が悪化するという悪循環に UTC ダベントリーが陥っていることの表れと言えるのである。

## (2) バッキンガムシャー UTC

次にバッキンガムシャー UTC について見る。<sup>[22]</sup> バッキンガムシャー UTC は2016年1月に査察を受けているが、2016年からは査察報告の項目がそれまでの5項目から「リーダーシップとマネジメントの有効性」「ティーチング、ラーニング、アセスメントの質」「個人的発達、行動、良好な学校生活」「生徒のアウトカム」「16歳から19歳の生徒のため学習プログラム」「以前の査察における総合評価」に変更されている。

バッキンガムシャー UTC の評価は「個人的発達、行動、良好な学校生活」「16歳から19歳の生徒のため学習プログラム」が「良」であったが、「リーダーシップとマネジメントの有効性」「ティーチング、ラーニング、アセスメントの質」「生徒のアウトカム」が「要改善」とされ、総合評価は「要改善」であった。<sup>[23]</sup>

こうした評価となった主な理由は以下のものである。

- キー・ステージ2の水準以下で入学した生徒の向上度は低く、2015年のGCSE結果の全国平均より低い。
- 2015年の英語と人文における生徒の向上度は全国平均よりもはるかに低い。
- 生徒のGCSEコースにおける向上度は、職業コースに比べると、特に人文、英語、英文学において低い。
- 特別なニーズを持つ生徒の向上度はGCSE資格における平均的向上度よりかなり低い。

[20] 拙稿 (2016) p.143

[21] Education Funding Agency, *Financial Notice to Improve-Daventry UTC*, 14 April 2016

[22] バッキンガムシャー UTC の開校は2013年9月。査察は2016年1月12日、13日に実施された。

[23] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, Buckinghamshire UTC, 12-13 January 2016* による。「以前の査察における総合評価は」初回の査察であるために適用されていない。

- 不利な環境にある生徒の向上度は、全国平均と比べると十分ではない。リーダーはそうした生徒の GCSE 科目における向上度を全国平均と比べてチェックしていない。
- リーダーはティーチングの質と GCSE 科目における生徒の向上度を十分に厳しくモニターしていない。
- 理事は低い GCSE の成績についてリーダーの責任を厳しく追及していない。最近まで理事は自分たちのこうした役割をあまり重視していなかった。

この評価で特に指摘されているのは、中等教育を提供する学校としての重要な役割である GCSE の資格付与における低い達成度である。生徒が14歳で入学する UTC も中等教育の基本的資格である GCSE 資格の付与において、高い達成度を示すことが当然のことながら期待される。この評価報告で指摘された点は、バッキンガムシャー UTC が中等学校としての基本的役割の遂行において不十分であることを示している。

企業との連携という点については、どのような評価であるのか。筆者は2014年11月11日にバッキンガムシャー UTC を訪問したが、校長はスポンサーである建設会社との連携とサポートを「本校は開校2年目ですが、テイラーウィンピー（建設会社）は2人の13年生を受け入れてくれています。彼らはテイラーウィンピーで週3日働き、本校で2日学習します。彼らは報酬を得ています。彼らは将来、現場監督となる予定で、今年度、卒業すると（テイラーウィンピーの）現場監督訓練プログラムに進むようになっています。・・・職場実習に行くと企業がその生徒を気に入れば、アプレンティスシップを提供する可能性があります。」<sup>[24]</sup>と述べていた。こうしたシックス・フォームにおける企業との連携について評価報告は、「責任者は、学習プログラムにおいて企業との緊密なリンクが実際に十分に活用されるように努力している。生徒はこれらを通して有用な実際の知識とともに仕事に必要な総合的スキルを獲得している」や「16歳以降の教育において大部分を占める職業教育は優れている。特に建築とコンピュータにおいては生徒の達成度は高い。建築においては43%の生徒が優の成績をとり、コンピュータ科目では89%が優をとっている。」さらに「効果的なキャリア・アドバイスとガイダンスによって、生徒は自分たちの将来の機会について十分な知識を持っており、大多数の生徒が就職、アプレンティスシップ、高等教育へと進んでいる。」と評価している。この評価は、

バッキンガムシャー UTC と企業スポンサーとの連携は十分に機能していることを示しており、同校のシックス・フォームについては、企業との連携による技術教育の推進という UTC の本質的機能の遂行という点ではプラスの評価を受けているのである。

### (3) UTC ランカシャー

UTC ランカシャーは2016年1月に査察を受けたが、<sup>[25]</sup>「リーダーシップとマネジメントの有効性」「ティーチング、ラーニング、アセスメントの質」「個人的発達、行動、良好な学校生活」「生徒のアウトカム」「16歳から19歳の生徒のため学習プログラム」の5項目すべてにおいて「要改善」で、総合評価でも「要改善」となった。<sup>[26]</sup>

UTC ランカシャーが「要改善」と評価された主な理由は以下のものである。

- キー・ステージ4における中核教科、特に英語と科学の達成度及びシックス・フォームにおけるアカデミックな教科の達成度は高くない。
- カリキュラム全体を通じてのリテラシーの水準向上の取り組みは不十分である
- 非実用的な科目におけるティーチングは、必ずしも十分な向上を促進してはならない。
- 最優秀の生徒が十分に向上することを可能にするようなティーチングが見られない場合もある。
- 生徒は、学習成果をどのようにすればあげることができるかについてのフィードバックを一貫して受けているわけではない
- シックス・フォームの生徒で外部の職場実習を修了している生徒の数が少ない。キャリア・ガイダンスは個別的には行われていないし、また領域が偏っている。

こうした評価に基づいて、特に具体的に改善を要する点としてあげられていたのは「キー・ステージ4における中核教科とシックス・フォームにおけるアカデミックな教科の達成度向上」である。UTC は単なる職業学校ではなく、アカデミックな科目と職業的科目の双方における高い水準を目指すことが、その特徴として掲げられているが、この評価は UTC ランカシャーでは現実的には、2つの科目の両立に困難が伴っていることを示すものである。

ただ、こうした問題点が指摘されているが、UTC 教育

[24] 拙稿 (2016) p.148

[25] UTC ランカシャーは2013年9月に開校。開校時の名称はビジョン・ラーニング・トラスト。査察は2016年1月26日、27日に実施されている。

[26] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, UTC Lancashire, 26-27 January 2016* による。「以前の査察における総合評価は」初回の査察であるために適用されていない。

における重要点である企業との連携については、「非常に効果的な企業とのリンクは、生徒が現実の仕事の世界における要求について理解するとともに、締切厳守、チーム・ワーク、コミュニケーションの重要性を理解することを可能にしている。」や「キー・ステージ4とシックス・フォームでのティーチングとアセスメントにおける企業の関与のレベルは高い。生徒は産業における実際上の問題に基づくプロジェクトを修了し、企業の担当者にプレゼンテーションをしているが、その結果、企業で行われていることについての現実的な見方ができるようになっている。」さらに「企業は雇用に関連づけられたプロジェクト及びすべての生徒による課題と関連づけられた企業見学を通じてカリキュラムの提供に大きく関わっている。その結果、生徒は、自分たちの学習の実生活への応用についての強い意識を持っている。」との評価がされている。

筆者は2014年11月13日にUTC ランカシャーを訪問したが、校長は「私たちは（通常中等学校よりも）はるかに強く企業とリンクしています。企業からの人は学校に来て生徒と一緒に活動します。今日の午前中、12学年が活動しているアプレントイスシップがあります。ここでは、週1回のペースで企業の人々がプロジェクトを教えています。また、（彼らは）プロジェクトも設定します。・・・企業の人は生徒の課題への取り組みについて評価を行います。生徒はプロジェクトをエンジョイしますが、私たちはプロジェクトの中で生徒が数学、科学を確実に学ぶようにしています。したがって、生徒が教室で数学を学習するとき、実生活に即したプロジェクトでやったことと関連させます。それは、数学と生活とを結びつけることで、これが、私たちがやろうとしていることです。」「<sup>[27]</sup>と企業主体のプロジェクトを通した学習の重要性和効果を強調していた。この点に関してはプラスの評価がされているのである。

このようにいくつかの点では、ポジティブな評価を受けたUTC ランカシャーであるが、2014/15年、2015/16年の定員充足率は約14%で、他のいくつかのUTCと同様に低い定員充足率に悩まされてきていた。こうした中で、UTC ランカシャーを運営するビジョンズ・ラーニング・トラストは2016年8月をもってUTC ランカシャーを閉校することを2016年5月に発表したのである。この決定についてローカル新聞は「UTC ランカシャーは地域において強く求められていたエンジニアを目指す若いタ

レントの新たな波をつくりだす旗艦的教育センターとして考えられていたが、減少する生徒数が早すぎる閉校をもたらした。このショッキングなニュースは同校を、若者の間の技術スキルを涵養する新しい学校として考えていた地元の企業や親にとっては打撃となるであろう。親たちは、今では子どもたちのために新しい学校を探すという骨が折れる仕事をやらなければならないようになったのである。」「<sup>[28]</sup>と報じた。また、ビジョンズ・ラーニング・トラストの理事は「UTC ランカシャーを閉校するという発表はトラスト、学校幹部、さらに生徒たちに技術教育を提供するために大変な努力をしたすべての関係者を失望させるものであった。われわれは閉校以外の道を探るあらゆる努力をしたが、残念ながら理事会は、少ない生徒数のために閉校が唯一のオプションであると認めざるをえなかった。」と、十分な数の生徒が集まらなかったために閉校に追い込まれたことを明らかにしたのである。<sup>[29]</sup>

### 3. 「不適」の評価を受けた UTC

#### (1) UTC プリマス

ここで取り上げている UTC の中で最低の「不適」の評価を受けたのが、UTC プリマスである。<sup>[30]</sup> その評価は「リーダーシップとマネジメントの有効性」「ティーチング、ラーニング、アセスメントの質」「生徒のアウトカム」「16歳から19歳の生徒のため学習プログラム」の4項目が「不適」、 「個人的発達、行動、良好な学校生活」が「要改善」であり、総合評価も最低の「不適」とされたのである。<sup>[31]</sup>

「不適」とされた理由は以下のようなものであった。

- 達成度は不十分であり、シックス・フォームを含めて改善の兆候をほとんど示していない。
- 余りにも多くのティーチングが、生徒がより高い達成度に到達するための期待やチャレンジを提供していない。
- 生徒の中には学習意欲が低い者もいる。彼らの学習結果の質は一定しておらず、しばしば乱雑であったり、完成されていない。
- 過去における弱いリーダーシップと教員の高い異動率が生徒の達成度を向上させるための努力を阻害してきた。新しいリーダーは最も重要な学校改善の項目のほとんどに対して大きな影響を与えることができていない。

[27] 拙稿 (2016) p.147

[28] *Burnley Express*, 'flagship £10m. technical college to close in August', 3 May 2016

[29] Ibid.

[30] UTC プリマスの開校は2013年9月。査察は2016年4月26日、27日に実施された。

[31] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, UTC Plymouth, 26-17 April 2016*による。「以前の査察における総合評価は」初回の査察であるために適用されていない。

- 学校の改善計画は効果的ではない。それはリーダーや理事が変化によってどのような成果をもたらされるかを知るための方法を明確には設定していない。学校を改善するための外部からのサポートが限定されている。
- 不利な環境にある生徒をサポートするための付加的な資金はほとんどインパクトを与えていない。
- 学校にはアカウンタビリティがほとんどない。リーダーは、改善をもたらすアクションが着実にまた一貫して確実に実施されるようにはしていない。
- 読み、書きを含む生徒にとって必要なスキルと理解力を発達させることによってカリキュラムは効果的ではない。
- 生徒は、自分に最適の進路を選択するための良質のガイダンスを受けていない。生徒の将来の幅を理解するための援助がもっと必要である。
- 生徒の低い達成度をもたらしている最も大きな弱点、特にティーチングの質について、理事はスクール・リーダーの責任を追及していない。

このように UTC プリマスへの評価はきわめて厳しいものである。筆者は2014年11月15日に UTC プリマスを訪問したが、その時の学校の雰囲気や生徒の態度は全体として「締まりがない」と感じられるものであった。UTC プリマスはかつて「失敗校」と評価された「荒れた学校」の敷地の後に建てられた学校であるが、その「前身校」のイメージのために UTC プリマスには学力の低い生徒や、問題行動を示す生徒が比較的多く入学してきていた。こうした要因がこのような評価の背景にあると考えられる。しかし、校長の強いリーダーシップが存在すれば、新設の学校として新たな発展が可能であったであろうが、評価報告書は校長や理事の「弱いリーダーシップ」を指摘している。そのため、UTC プリマスが UTC としての特徴的な教育を行えなかった状況が「カリキュラムは生徒のアカデミックな能力を最大限に発達させることにおいて効果的ではない。生徒にとって必要な幅広いスキルと理解力を発達させることにも成功していない。卒業した生徒の中には、UTC プリマスでの経験が前の学校で期待したものと大差はなかった、また自分が期待したものを学校が提供しなかったと感じているものもある。」との評価に端的に示されているのである。また、筆者の訪問時に校長は UTC の教育における理論と実践の融合について「生徒は、『何故、王様や女王が何をしたかを学ばなければならないのか』『これを学ぶ利点はいったい何か』を問います。学ばないといけない大事なことがある場合、

試験にパスするために学ぶとか、知識のための知識の学習ではなく、それを学べば仕事場で仕事をうまくできるようになるし、問題も解決できるという考えを重視しています。」<sup>[32]</sup>と述べていた。しかし、評価報告は「学校にはさまざまなテクニカルなマシーンと設備が備えられているが、生徒たちは自分たちの学習をサポートするためにそれらを使う機会が少なかったと話した。生徒たちは学習において実際の学習と理論的学習のあいだの結びつきを常に理解しているわけではなかったとも述べている。」と指摘し、校長が掲げた理論と実践の融合という UTC 教育の「理想」の浸透が不十分であったとを指摘している。

また、企業との連携については、筆者の訪問時に、校長は「彼ら（企業）はカリキュラムについてアドバイスをし、プロジェクトについてもアドバイスをします。また、本校の生徒が企業の施設を利用できるようにもなっています。授業で教えることもしています。昨年、プリンセス・ヨット（高級ヨットの製造会社）の1500万ポンドのヨットプロジェクトで、生徒は、船体のデザインについて（企業担当者から）週1回学びました。またスピニカ（銀行の貸金庫で使う電子式の保管箱メーカー）という小企業のプロジェクトでは、生徒はそのための検査機器を作成しました。こうしたプロジェクトは UTC の教育の中核にあります。」<sup>[33]</sup>と企業との連携を特に強調していた。この点について、評価報告は「生徒は企業での職場実習の時に受けたアドバイスやガイダンスが役に立った」や「生徒たちは低い試験結果にもかかわらずアプレンティスシップや継続的な訓練、教育に進んでいくことができたが、それには地元企業とのリンクや、企業での職場実習で彼らが獲得した雇用可能性が役に立っている。」として、企業とのリンクが一定の効果を上げたことを指摘している。しかし、それは、そこに UTC プリマスが果たした役割がどの程度あったかとの疑問が残る指摘でもある。事実、外部との関係に関する評価は、「学校への外部によるサポートは効果的ではなかった。開校以来学校は他のネットワークから大部分孤立してきた。新たに作られた他の学校や機関とのパートナーシップは、まだ十分な成果をあげるまでには至っていない。」というものであった。この評価は、UTC の教育の本質である大学や企業との連携や協力が十分には機能してこなかったことをうかがわせるものであり、UTC プリマスは UTC としての任務を果たすことにおいて「失敗」しているとも考えられるのである。

[32] 拙稿（2016）p.144

[33] 拙稿（2016）p.148

## (2) UTC セントラル・ベッドフォードシャー

UTC セントラル・ベッドフォードシャー<sup>[34]</sup>も「リーダーシップとマネジメント」ティーチングの質「生徒の達成度」について「不適」,「生徒の行動と安全」について「要改善」と評価され,総合評価で「不適」となった。<sup>[35]</sup>

その主な評価点は以下のようなものである。

- 開校以来のリーダーの頻繁な異動のために,キーとなる方針が実行されずまた教師のパフォーマンス管理を含む重要なシステムが構築されていない。
- 理事を含むリーダーが学校の有効性にポジティブなインパクトを与え始めたのはつい最近のことである。開始された改善はまだ定着していない。
- 生徒に期待される向上と,生徒の次の段階の教育,訓練,キャリアに必要なすべてのスキルを発達させることを可能にするためには,余りにも多くのティーチングが不十分なものである。
- 生徒に刺激を与え意欲を増すために十分な科目の知識を持っている教師が少なすぎる。
- 教師が必ずしも授業での生徒の理解力やどれだけスキルを発達させたかについて常にチェックするわけでないので,学習が不安定になっている。
- シックス・フォームの生徒は将来の選択肢をサポートするようなバランスのとれたカリキュラムを履修していない。
- 学校の中核であるエンジニアリング科目における良好な向上を保証するためのリテラシー・スキルや数学的スキルが不十分な生徒が余りにも多い。

こうした評価は,エンジニアリングをスペシャリズムとする UTC セントラル・ベッドフォードシャーの教育を支えるための基礎的条件が整っていないことを示すものである。その状況は「カリキュラム全体を通じての生徒の英語と数学スキルの発達には貧弱である。特にエンジニアリング科目において余りにも多くの誤りが訂正されずにそのままにされている。」や「2つの建物に分かれているという物理的条件によって悪化しているエンジニアリング部門と他の教科部門との間にほとんど交流がないことが,エンジニアリング・エトスの創造を弱めている。」との指摘にも表されている。

こうした評価を受けた UTC セントラル・ベッドフォー

ドシャーはその後,特別措置下に置かれて,近隣の継続教育カレッジのベッドフォード・カレッジの介入による学校改善の努力が行われていた。筆者は2015年3月19日に UTC セントラル・ベッドフォードシャーを訪問したが,校長は「理事会会長は私にとってはメンターですが,ベッドフォード・カレッジから来ており,戦略面でのアドバイスをしてくれます。(カレッジは)本校の日常的な運営ではなく,本校の基本方針などの戦略的な面でのサポートに関わっています。それは良いバランスだと思います。彼らは私たちに命令するのではなく,前進するためのサポートをしてくれます。」<sup>[36]</sup>と,ベッドフォード・カレッジによる学校改善に向けてのサポートに期待していた。そうした改善の努力の結果,2015年1月の教育水準局の特別査察報告は,「UTC セントラル・ベッドフォードシャーの教師のティーチングの質は着実に改善している。教師の教科に関する知識は強化されている。以前は,自分の専門科目を教えていない教師も見られたが,今ではそうでない。生徒は教師をより信頼するようになっていいるが,その理由は教師がよりの確に生徒のニーズに対応するようになったからである。」と,ベッドフォード・カレッジによるサポートが,学校改善に大きな役割を果たしつつあることを指摘した。<sup>[37]</sup>しかし,こうした努力にもかかわらず UTC セントラル・ベッドフォードシャーは2016年3月に,同年8月をもって開校4年しかたっていない同校を閉校することを発表したのである。同校の理事会によるとその理由は「改善の努力を1年間続けたが十分に生徒を惹きつけることができず,財政的に存続することが困難になったため」というものであった。<sup>[38]</sup>

## 4. 閉校した UTC

これまで開校した UTC の中で2015年8月という早期に閉校した UTC が存在する。ハックニー UTC とブラックカントリー UTC である。2012年9月に開校したハックニー UTC は2014年1月15日,16日に教育水準局の査察を受けたがその評価は「リーダーシップとマネジメント」「生徒の行動と安全」「ティーチングの質」「生徒の達成度」の4項目で「要改善」,総合評価も「要改善」であった。<sup>[39]</sup> その主な理由は以下のようなものである。

- ティーチングはすべての生徒の良好な向上を可能とするようなものではない。何人かの教師が出す課題は,必ずしも生徒の興味や十分なチャレンジを引き

[34] UTC セントラル・ベッドフォードシャーの開校は2012年9月。査察は2014年3月18日,19日に実施された。

[35] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, Central Bedfordshire UTC, 18-19 March 2014*による。

[36] 拙稿(2016) p.145

[37] *FE Week*, 'FE college UTC heads out of special measures', March 9, 2015.

[38] UTC セントラル・ベッドフォードシャーの定員充足率は,2014/15年,2015/16年で約16.8%であった。(FE Week, op.cit. February 8, 2016)

[39] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, Hackney University Technical College, 15-16 January 2014*による。

出すようなものではない。

- いくつかの教科，例えば数学と歴史における達成度は基準に達していない。
- 授業に熱心に参加せず規律を乱す少数の生徒がいる。何人かの教師は規律違反に対して一貫した方針で臨んでいない。過去，退学となった生徒が多数いる。
- 校長とシニア・リーダーはさまざまな教科のティーチングにおける弱点に取り組んでいなかった。
- 科目担当の教師の中にはティーチングにおける急速な改善につながるスキルを持たないものもいる。
- 生徒の学習成果はすべての教師によって必ずしも詳しく評価されておらず，その結果生徒はどのように向上しているのかわからなくなっていた。
- 全科目を通じて生徒はそのリテラシー・スキルを伸ばすための十分な機会を与えられていなかった。

このような厳しい評価を受けたハックニー UTC は，入学希望者が激減したため2015年8月での閉校を余儀なくされた。これについて *Times Educational Supplement* は「旗艦的な UTC が減り続ける生徒のために閉校を発表せざるを得ない状況に追い込まれた。ロンドン東部にあるハックニー UTC は，定員75人に対して29人の志願者しかいなかったために，開校してわずか2年で閉校すると発表した。この発表は，多くの点でカレッジの質が低いことを批判した教育水準局の査察報告に続いておこなわれた。」<sup>[40]</sup> と，査察報告がハックニー UTC にとって大きな打撃となったと報じたのである。

2015年8月で閉校となった第2の UTC はブラックカントリー UTC である。2011年9月開校のブラックカントリー UTC は，2013年1月に教育水準局の査察を受けたが，その結果はハックニー UTC と同様に「要改善」という評価であった。さらに，その後2015年3月に特別査察を受け特別措置下に置かれることとなった。その主な理由は以下のようなものであった。<sup>[41]</sup>

- 生徒の達成度は不十分である。その理由は生徒の水準は全国平均よりもはるかに低いからである。
- 生徒の達成度に対する教師の期待は低く，多くのティーチングの質は低く，生徒は十分な向上を示していない。
- 学習結果に対する十分なフィードバックを生徒は受けておらず，したがってどのように改善するのがわからないでいる。

- 授業や廊下での規律のない行動のために生徒は学校が安全とは思っていない。
- 出席のレベルは平均よりはるかに低く，生徒の出席を改善するシステムは機能していない。

このような学校の教育や管理運営の実態に対する極めて低い評価を受けたブラックカントリー UTC も，2015年8月に閉校することを決定したのである。閉校の理由を，ブラックカントリー UTC は「開校以来，ブラックカントリー UTC の生徒数は少なかった。（閉校という）決定は，最近の失望せざるを得ない査察結果，現在のそして予想される生徒数への徹底的な評価，財政的問題，教員補充のキャパシティの問題，さらにこれらがティーチングとラーニングの水準に及ぼすインパクトを考慮した結果である。この考慮に基づき理事会は学校がもはや存立可能なまたは持続可能な組織ではないと結論づけ，2015年8月31日をもって閉校することとした。」<sup>[42]</sup> と発表した。ブラックカントリー UTC もハックニー UTC と同じく，入学生徒の減少と教育水準局による低い評価という「二重の足かせ」によって閉校を余儀なくされたのである。

## おわりに

以上，UTC に対する教育水準局による学校査察報告に基づき，UTC に対する評価を見てきた。その評価は，「優」という最高の評価から「不適」という最低の評価までにわたっているが，16校のうち「優」と「良」のポジティブな評価を受けた UTC は8校，「要改善」と「不適」のネガティブな評価を受けた UTC が8校と，プラスの評価とマイナスの評価が半々になっている。

高低の評価を分けることとなった最も重要な要因は何であるのか。本稿でとりあげた10校以外の他の6校も含めた評価報告を見ると，高い評価を受けた UTC に共通しているのは，校長や理事会の「強いリーダーシップ」である。例えば UTC レディングについて，評価報告は「開校以来，校長の強力なリーダーシップが学校全体を通じて明確なビジョンとエトスを浸透させた。すべての面において最高の水準を目指すという校長の強い方針は，幹部教員とすべてのスタッフによって共有されている。」<sup>[43]</sup> と述べている。また，JCB アカデミーとウィガン UTC についても，それぞれ「校長は，その明確な期待と達成度の向上への焦点付けによって，学校の全成員にとっての基調を定めた。」<sup>[44]</sup>，「2014年8月に就任した新しい校長

[40] TES, Flagship University Technical College to close due to falling pupil numbers, 11 July 2014

[41] 以下の評価内容は Ofsted, *Inspection Report, Black Country UTC, 10-11 March 2015* による。

[42] The Black Country UTC's website, quoted in House of Commons Library, *Briefing Paper, No.-7250, 15 March 2016*. p.12

[43] Ofsted, *Inspection Report: UTC Reading, 19-20 May 2015*, p. 4

[44] Ofsted, *Inspection Report, The JCB Academy, 7-8 May 2014*, p. 6

は学校改善へ向けての確固とした焦点，エネルギー，非常に強い意志を学校に持ち込んだ。校長はスタッフの強いコミットメントとすべての生徒への高い願望を浸透させながら，迅速に学校改善を主導した。」<sup>[45]</sup>と，校長の学校改善への強い意志の重要性を強調している。

一方，低い評価を受けた UTC の校長に対しては厳しい評価が下されている。UTC ランカシャーについては「学校のリーダーはティーチングの一貫した高い質を確保できていない。その結果，生徒の高いアウトカムが生み出されていない。現在の学校の構造では，ミドル・リーダーたちの質保証への関与の程度が弱い。」<sup>[46]</sup>ことが指摘されている。また，UTC プリマスについても「学校全体を通じてアカウントビリティがほとんど見られない。理事は校長の責任を問うことをしなかったし，校長は確実に重要な改革がしっかりとまた継続して根付くようにはしなかった。その結果，余りにも多くのティーチングの質は低く，改善の兆候はほとんど見られない。」<sup>[47]</sup>と評価されている。

UTC に限らず学校が「強く」なるためには校長の強いリーダーシップが不可欠であることはいうまでもない。しかし UTC は，これまでのイギリスの中等学校には見られなかった14歳での入学という新たなそして UTC にとってはネガティブな要素や，自校の生徒を UTC に「奪われる」ことをおそれる近隣の中等学校の「敵意」，さらにイギリスの教育界に見られる技術教育への偏見という「逆風」の中で，一から学校を立ち上げ発展させていかねばならない。そのためには通常の学校の校長以上に強力なリーダーシップを持つリーダーが求められる。UTC の今後の発展の鍵はそうした人材の確保にかかっているということを，教育水準局の評価報告は「あらためて」確認させるのである。

---

[45] Ofsted, *Inspection Report, Wigan UTC, 19-20 May 2015*, p. 4

[46] Ofsted, *Inspection Report, UTC Lancashire, 26-27 January 2016*, p. 3

[47] Ofsted, *Inspection Report, UTC Plymouth, 26-27 April 2016*, p. 3